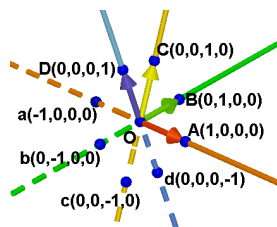


# 正16胞体の 投影図,展開図

Cabri 研究会 2012年4月8日  
生越 茂樹

## § 1. 頂点,辺,面,胞

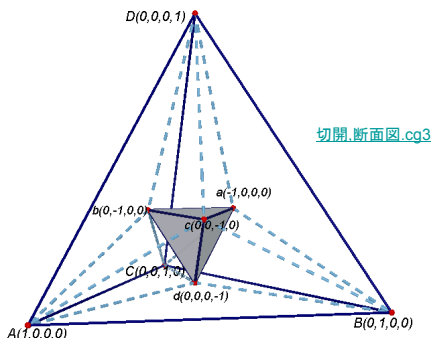
座標軸上の8点 $A(1,0,0,0)$ ,  $B(0,1,0,0)$ ,  $C(0,0,1,0)$ ,  $D(0,0,0,1)$ ,  
 $a(-1,0,0,0)$ ,  $b(0,-1,0,0)$ ,  $c(0,0,-1,0)$ ,  $d(0,0,0,-1)$ を頂点,  
 各々の点 $X$ と,  $X$ と異なる軸上の点 $Y$ を結ぶ線分を辺と  
 する超立体を考える. この時, 各頂点から6本の辺が出て,  
 $A_i, B_j, C_k, D_l$ を頂点とする $2^4$ 個の正四面体が胞となる.  
 (但し  $i=0,1, A_1=A, A_2=a$ とする.  $B_j, C_k, D_l$ も同様)



即ち, この超多面体の,

頂点の数は,	8個,
辺の数は,	$8 \times 6(\text{本}) \times \frac{1}{2} = 24$ 本,
面の数は,	$16 \times 4(\text{面}) \times \frac{1}{2} = 32$ 面,
胞の数は,	16室

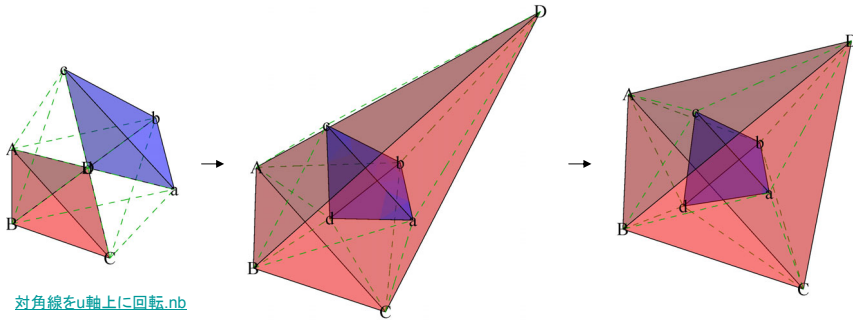
となり, 全ての頂点是对称である.  
 このような胞体を **正16胞体** という.



## § 2. 投影図

A,B,C,Dは、超平面  $x+y+z+u=1$  上に、a,b,c,dは、超平面  $x+y+z+u=-1$  上にある。よって  $\vec{n}=(1,1,1,1)$  が  $\vec{m}=(0,0,0,1)$  になるように  $O\vec{n}\vec{m}$  平面上で回転させ、 $u$  軸方向に適当に移動すると、A,B,C,Dは超平面  $u=k$  ( $k>1$ ) 上に、a,b,c,dは  $u=k+1$  上に移る。これを「Oを中心とする  $u=1$  の上への中心射影」で見ると、 $(x,y,z)$  空間で中心が  $(0,0,0)$ 、相似比が  $(k+1):(-k)$  の正四面体ABCDと正四面体abcdが見える。

（例えば、A,aの中心射影をそれぞれ  $A', a'$  とすると、3次元空間で、 $\vec{Oa'} = -\frac{k}{k+1}\vec{OA'}$ ）



## § 3. 断面図

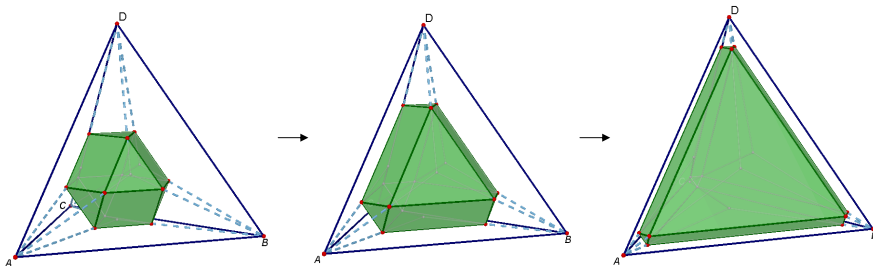
§1の正16胞体を、§2で述べた様に回転&移動すると、

$$A\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, -\frac{1}{\sqrt{6}}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k\right), \quad B\left(0, \frac{\sqrt{6}}{3}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k\right), \quad C\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k\right), \quad D\left(0, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}, k\right),$$

$$a\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1\right), \quad b\left(0, -\frac{\sqrt{6}}{3}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1\right), \quad c\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1\right), \quad d\left(0, 0, -\frac{\sqrt{3}}{2}, k+1\right)$$

のような超立体に移せる。これを、超平面  $u=t$  で切った断面は14面体

(正三角形8面&長方形6面)となる。(下図は  $k=1/3$  の時、 $u=1$  の上への中心投影)



切開断面図.cg3

## § 4. 展開図 (例1)

§3の様に, 超平面  $u = k$  上に A,B,C,D,  $u = k+1$  上に a,b,c,d が来る様に回転, 平行移動した

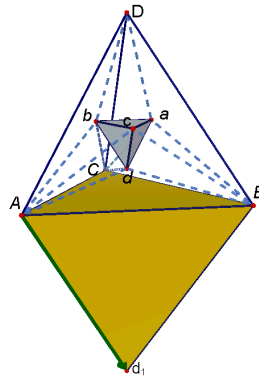
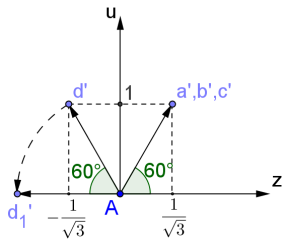
正 16 胞体の座標は,  $A \left( \frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k \right)$ ,  $B \left( 0, \frac{\sqrt{6}}{3}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k \right)$ ,  $C \left( -\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, -\frac{\sqrt{3}}{6}, k \right)$ ,  
 $D \left( 0, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}, k \right)$ ,  $a \left( -\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1 \right)$ ,  $b \left( 0, -\frac{\sqrt{6}}{3}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1 \right)$ ,  $c \left( \frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{6}}, \frac{\sqrt{3}}{6}, k+1 \right)$ ,  $d \left( 0, 0, -\frac{\sqrt{3}}{2}, k+1 \right)$

平面ABCの直交補空間は  $uz$  平面. 点dの  $uz$  平面への

正射影を  $d'$  と表すと 「 $\overrightarrow{Ad'}$  の  $z$  成分  $= -1/\sqrt{3}$ ,  $u$  成分  $= 1$ 」

故に, 胞ABCdを平面ABCを軸に  $60^\circ$  回転すると,

超平面  $u = k$  上の胞  $ABCd_1$  に展開される. (左下图)



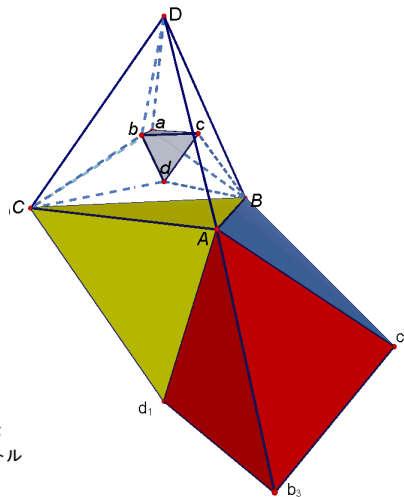
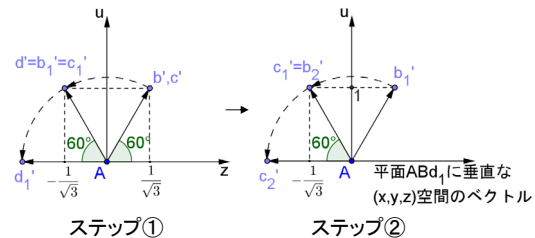
①前頁の回転で, 胞  $ABCd$ ,  $Abcd$  も同時に動かしたとし,  $b, c$  の像を  $b_1, c_1$  とする.

この時,  $b_1, c_1$  の  $zu$  成分は  $(-1/\sqrt{3}, 1)$  で,  $x, y$  成分は変化しない.

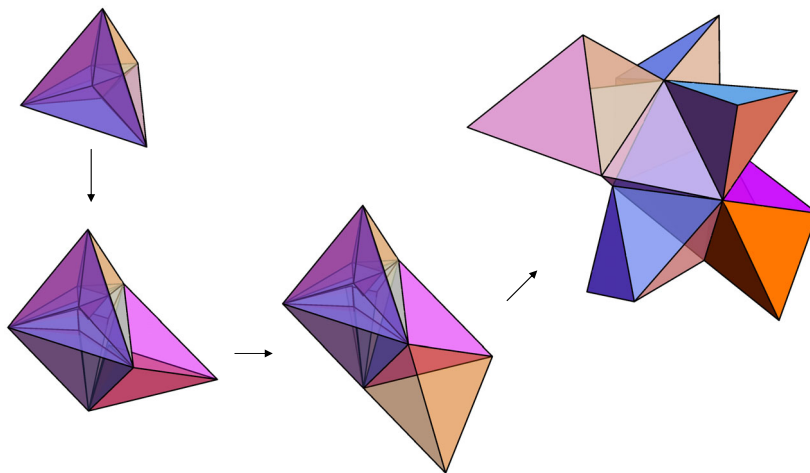
②次に胞  $ABC_1d_1$ ,  $Ab_1c_1d_1$  を, 平面  $ABd_1$  を軸に  $60^\circ$  回転すると, 胞  $ABC_1d_1$  は超平面  $u = k$  上の胞  $ABC_2d_1$  に展開される.

③さらに胞  $Ab_2c_2d_1$  を, 平面  $Ac_2d_1$  を軸に  $60^\circ$  回転すると, 超平面  $u = k$  上の胞  $Ab_3c_2d_1$  に展開される.

④同様にして, 全ての胞は超平面  $u = k$  上に展開される. (次頁)



## 正16胞体の展開図 (例1)



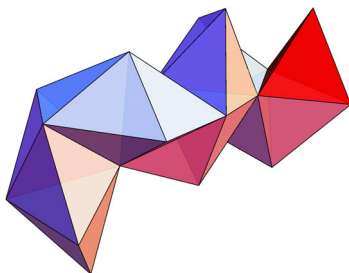
[development1.nb](#)

## § 5. 様々な展開図

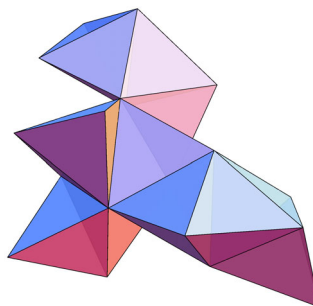
3次元空間内で、同一平面上にない面 $X$ と面 $Y$ が辺 $l$ を共有する時、 $l$ を軸とする回転で、 $Y$ を $X$ と同じ平面上に展開できる。 [snake.cg3](#) [starfish.cg3](#)

同様に、4次元空間内で、同一超平面上にない胞 $X$ と $Y$ が面 $S$ を共有するとき、 $S$ を軸とする回転で、 $Y$ を $X$ と同じ超平面上に展開できる。従って、面の共有関係を調べるだけで、胞を展開する事ができる。

例2. snake型



例3. starfish型



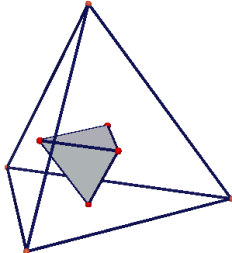
[random\\_development.nb](#)

(「Shift + Enter」を押す毎に、新しい展開図が作られます。)

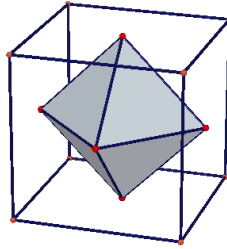
## § 6. 双対性

3次元の多面体XとYにおいて、Xの各面の中心をYの頂点、Xの隣り合う2面の中心を結ぶ辺をYの辺とした立体Yを、Xと**双対**という。例えば 正4面体と正4面体、正6面体と正8面体、正12面体と正20面体は 双対となる。

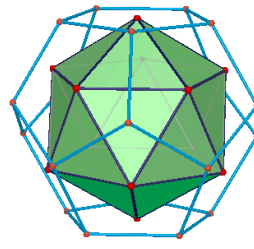
	頂点の個数	辺の本数	面の枚数
正4面体	4	6	4
正6面体	8	12	6
正8面体	6	12	8
正12面体	20	30	12
正20面体	12	30	20



正4面体と正4面体.cg3



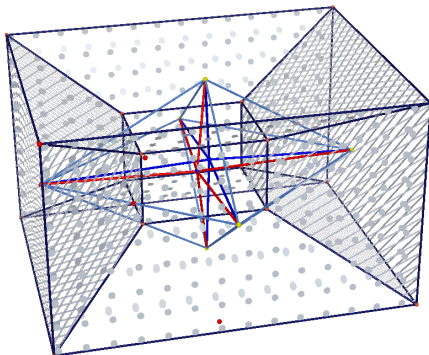
正6面体と正8面体.cg3



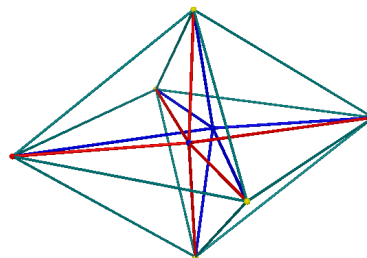
正12面体と正20面体.cg3

4次元の超多面体XとYにおいて、Xの各胞の中心をYの頂点、Xの隣り合う2胞の中心を結ぶ辺をYの辺とした立体Yを、Xと**双対**という。例えば 正5胞体と正5胞体、正8胞体と正16胞体は互いに 双対となる。 [8胞体と16胞体.cg3](#) [16cells.wrl](#)

	頂点の個数	辺の本数	面の枚数	胞の室数
正5胞体	5	10	10	5
正8胞体	16	32	24	8
正16胞体	8	24	32	16



正8胞体と16胞体



16胞体